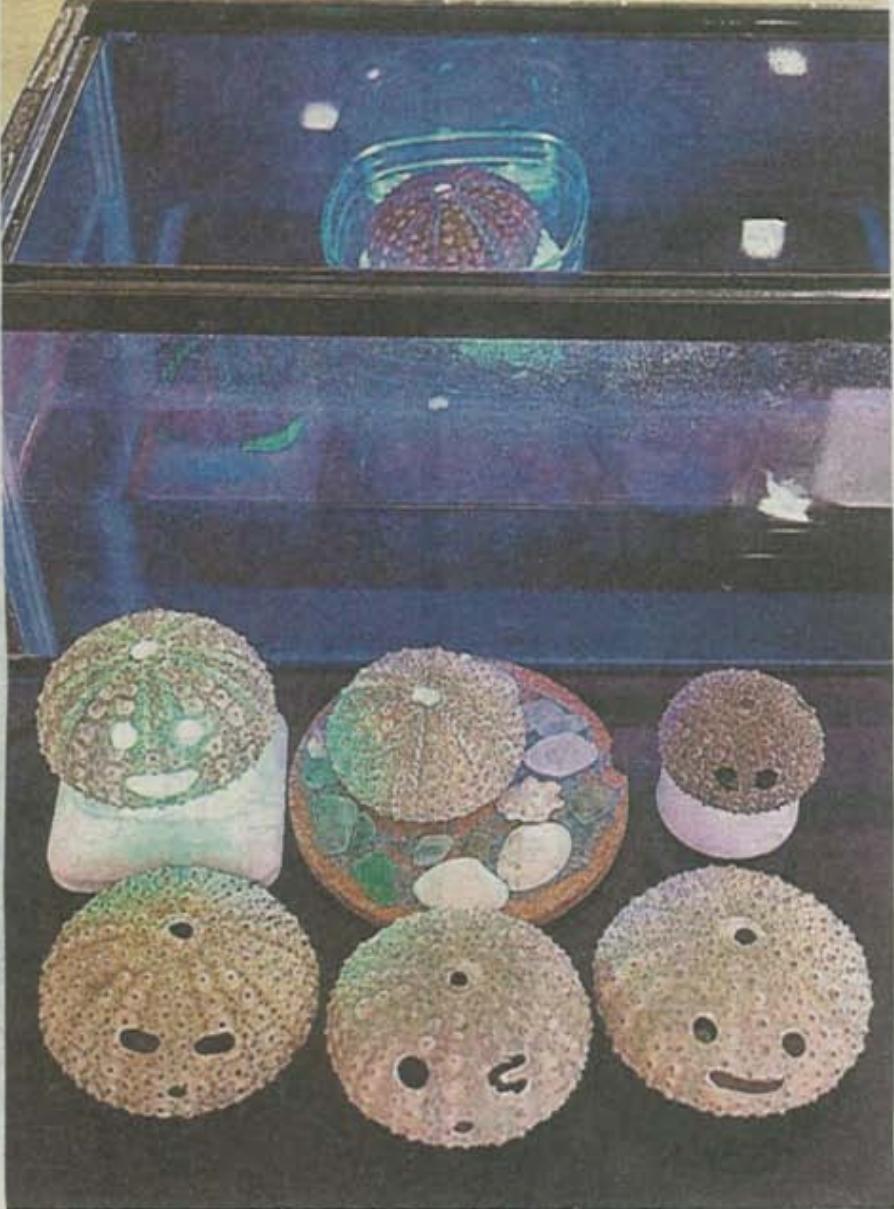


児童が考案したUNIKARAの新商品＝5日、高浜小



ウニ殻の「うにっち」だよ

高浜小児童が考案し、商品化しているムラサキウニの殻を使ったランプ「UNIKARA（うにから）」の新商品が5日、同校で披露された。キャラクター化したものや、水に浮かべるフロート型など4種類を児童が紹介した。11月中旬の販売を目指す。

5、6年生が、まちづくりグループ「高浜明日研究所」と協力し、地域課題解決プロジェ

みんなで
読もう

クトを進めている。活動の一環として、昨年度の6年生が廃場を荒らすムラサキウニ利活用ヘランプを考案した。

活動発表会で5年生が新たなUNIKARAを披露した。▽殻に穴を開けたランプのマスコットキャラクター「うにっち」▽風呂場や水槽に浮かべて楽しむランプ▽自分だけのオリジナルランプを作れる制作キット▽カプセル玩具向けミニランプ。いずれも親しみを持ってもらえるよう見た目を工夫した。見越愛彩さん（5年）は「みんながUNIKARAに興味を持って高浜に来てくれるとうれしい」と話した。

6年生の発表もあり、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を町の課題に置き換えた「高小SDGs」達成への取り組みを紹介した。

（石川悠樹）

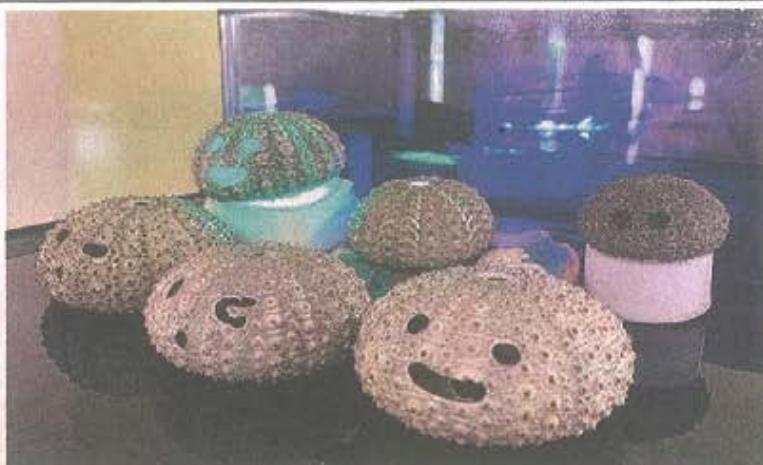
高浜小児童新作ランプ披露

SDGs達成目指す商品考案

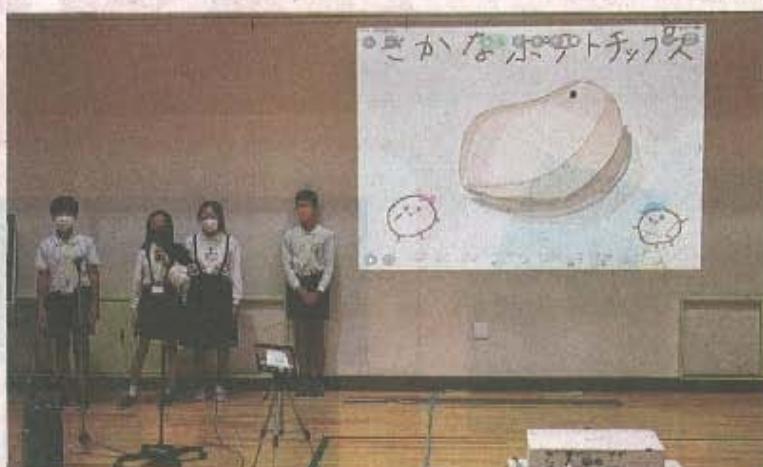
高浜小児童がプレゼン大会

高浜町高浜小学校の五、六年生は五日、ムラサキウニを活用して昨年開発された商品の改良版発表や、持続可能な高浜を実現するために考案した商品のプレゼン

ン大会に臨んだ。いずれも、町の課題解決をテーマに本年度設定した八つの独自目標「高小SDGs」の達成を目指した商品となっている。



①5年生が改良したムラサキウニ殻を使ったランプ
②魚の骨を使う「さかなポテトチップス」を発表する6年生の班=いずれも高浜町高浜小で



取り組みは町民有志らのまちづくり団体「高浜明日研究所」が協力。五、六年生は「コドモノ明日研究所」の三期生として、「海をまもる」「観光をまもる」など高小SDGsを意識した商品開発を進めてきた。

取り組んだ。デザイン班が帽子をかぶったキャラクター「うにうち」を考え、それを基にきれいに光が漏れ出るようにした商品などが

ある。十一月中旬から、同町塩土のシーフードマーケット「UMIKARA」で販売する。

六年生は八班に分かれ新商品案のプレゼンをした。食品ロスを減らすために魚の骨を材料にした「さかなポテトチップス」のほか、特産品の杜仲茶を使った染め物や、うちうらレモンを使つたゼリーといった観光地としての高浜の魅力を発信する案もあった。

プレゼンの後、実際に商品化する案を選ぶ全校児童や保護者による投票があ

った。投票ブースは今後、高浜公民館などに一週間ほど設けられ、訪れた人も投票することができる。月末に全ての票を集計して商品を決め、来年一月の完成品お披露目を目指す。

先月、SDGsについて児童とともに学んだ若狭高校一年の

は発表を聞き、「小学生ならではの発想で、国連のSDGsにもつながっている。行動を起こす第一歩だと思う」と話していた。
(相原豪)

生)が開発。今年度の五年生が受け継ぎ、デザイン班と四つの改良班に分かれて取り組んだ。デザイン班が帽子をかぶったキャラクター「うにうち」を考え、それを基にきれいに光が漏れ出るようにした商品などが

ある。十一月中旬から、同町塩土のシーフードマーケット「UMIKARA」で販売する。

六年生は八班に分かれ新商品案のプレゼンをした。食品ロスを減らすために魚の骨を材料にした「さかなポテトチップス」のほか、特産品の杜仲茶を使った染め物や、うちうらレモンを使つたゼリーといった観光地としての高浜の魅力を発信する案もあった。

プレゼンの後、実際に商品化する案を選ぶ全校児童や保護者による投票があ